

『明解古典講読』学習目標と評価規準例

「評価規準」は、「B規準（おおむね満足できると判断できるもの）」の例を示している。

蜂飼いの大臣（古事談）

学習目標	評価の観点	評価規準	評価方法	
(1) 古文に描かれたものの見方や感じ方について関心を持つ。	関心・意欲 ・態度	① 説話が述べようとしている主題について考えようとしている。	発言の確認	規準を実現していない学習者への手だての例 宗輔の特異な人物像と鳥羽院の御感の意味に目を向けさせる。
(2) 古文の文章を歴史的仮名遣いなどに注意しながら音読する。	読む能力	② 歴史的仮名遣いなどに注意しながら、本文をおおむね音読できる。	行動の観察	歴史的仮名遣いなどの表記法や古文特有の表現に注意させる。
(3) 描かれているできごとの経緯をおおむね理解する。		③ 鳥羽院でのできごとを、順を追っておおむね記述できる。	記述の点検	蜂の巢落下後の人々の反応、宗輔の対応、鳥羽院の行動という項目を示す。
(4) 古文に特有の表記法や表現、語彙などがあることを理解する。	言語についての知識・理解・技能	④ 本文の主要な箇所を現代語に直せる。	記述の点検	前後の文脈から推理するよう促す。

清水寺のいさかい（古本説話集）

学習目標	評価の観点	評価規準	評価方法	
(1) 古文に描かれた人物や行動の特異性について関心を持つ。	関心・意欲 ・態度	① 忠明のとつた行動の大胆さについて、感じ取ろうとしている。	発言の確認	規準を表現していない学習者への手だての例 「清水の舞台」の構造を考えさせる。
(2) 古文の文章を歴史的仮名遣いなどに注意しながら音読する。	読む能力	② 歴史的仮名遣いなどに注意しながら、本文をおおむね音読できる。	行動の観察	歴史的仮名遣いなどの表記法や古文特有の表現に注意させる。
(3) 描かれているできごとの経緯をおおむね理解する。		③ 清水寺のできごとを、順を追っておおむね記述できる。	記述の点検	「事件の発端」「事件の成り行き」「忠明の行動」「京童の反応」という読みの枠組を示す。
(4) 古文に特有の文章表現を理解する。	言語についての知識・理解・技能	④ 省略されている文の主語（動作主）を明らかにすることができる。	記述の点検	できごとの経過を具体的に想像させる。

桜の精（今物語）

学習目標	評価の観点	評価規準	評価方法	規準を表現していない学習者への手だての例
(1) 古文に描かれた人々のものの見方や考え方に興味を持つ。	関心・意欲・態度	① 「あながちにものを思ふ折には、木草なれども、かやうなることの侍るにや。」の一文の意義を考えようとしている。	発言の確認	「あながちにものを思ふ」の意味や「かやうなること」が指し示す内容を考えさせる。
(2) 古文の文章を歴史的仮名遣いなどに注意しながら音読する。	読む能力	② 歴史的仮名遣いなどに注意しながら、本文をおおむね音読できる。	行動の観察	歴史的仮名遣いなどの表記法や古文特有の表現に注意させる。
(3) 描かれているできごとの経緯をおおむね理解する。		③ 小式部内侍の身に起きたある夜のできごとを、順を追っておおむね記述できる。	記述の点検	「糸の付いた針」を大ニ条殿の袖に刺したこと、その糸が翌朝、桜の木に下がっていたことのつながりを考えさせる。
(4) 古文に特有の文章表現を理解する。	言語についての知識・理解・技能	④ 省略されている文の主語（動作主）や対象語を明らかにすることができ	記述の点検	敬語の使われ方に着目させる。

恵心僧都の母（発心集）

学習目標	評価の観点	評価規準	評価方法	規準を表現していない学習者への手だての例
(1) 古文に描かれた人々のものの見方や考え方に関心を持つ。	関心・意欲 ・態度	① 「ありがたかりける母の心なり。」の一文の意義を考えようとしている。	発言の確認	「ありがたし」の意味とその理由を考えさせる。
(2) 古文の文章を歴史的仮名遣いなどに注意しながら音読する。	読む能力	② 歴史的仮名遣いなどに注意しながら、本文をおおむね音読できる。	行動の観察	歴史的仮名遣いなどの表記法や表現に注意させる。
(3) 古文に描かれた人物の心情や考えを理解する。		③ 僧都の心情の変化と母の言動の意外さをおおむね把握できる。	記述の点検	世俗的な功利と出家の身との対比に注意を向けさせる。
(4) 古文特有の単語の意味を理解する。	言語についての知識・理解・技能	④ 主要な古文特有の単語の文脈中での意味をおおまかに把握できる。	記述の点検	必要に応じて「本書で学ぶ古文の基本単語」(113ページ) および古語辞典を参照させる。

伴の大納言の夢（宇治拾遺物語）

学習目標		評価の観点	
(1) 説話に描かれた世界のおもしろさに 関心を持つ。	関心・意欲 ・態度	① 説話文学のおもしろさがどこにある かについて考えようとしている。	評価方法
(2) 古文の文章を内容や展開、人物の様 子などを考えて音読する。	読む能力	② 古文の文章を、主語の転換に注意し て話の展開を押さえながら音読するこ とができる。	発言の確認
(3) 説話に描かれた編者の考えや意図を 理解する。		③ 伴善男の運命に対する編者の見方に ついておおむね理解することができ る。	行動の観察
(4) 指示語のはたらきについて理解する。	言語につい ての知識・ 理解・技能	④ 文脈の中に置かれた指示語の指示対 象や指示内容を指摘することができ る。	記述の点検
		「かの国」↓「その国」、「さもせぬに」 ↓「そうもしないのに」のように置き換 えて示す。	規準を表現していない学習者への手だての例
		「郡司がことばにたがはず。」の一文の 意味を考えさせる。	話の展開や人物像などの特異性に目を 向けさせる。
		第一段落の文章中で、主語の変わる箇 所を考えさせる。	

百鬼夜行（宇治拾遺物語）

学習目標	評価の観点	評価規準	評価方法	
(1) 説話に描かれた世界のおもしろさに 関心を持つ。	関心・意欲 ・態度	① 説話のおもしろさがどこにあるかに ついて、考えようとしている。	発言の確認	規準を表現していない学習者への手だての例 話の展開、異形の世界の奇抜さに目を 向けさせる。
(2) 古文の文章を内容や展開、人物の様 子などを考えて音読する。	読む能力	② 古文の文章を、登場人物の感情を押 さえながら音読することができる。	行動の観察	会話文の話し手の感情を想像させる。
(3) 説話に描かれた古代人の物の見方や 考え方を理解する。		③ 「あさまし」が示す内容を明らかに し、その感覚を理解することができる。	記述の点検	「あさまし」の辞書的意味を確認させ る。
(4) 係助詞、接続助詞のはたらきについ て理解する。	言語につい ての知識・ 理解・技能	④ 係り結びの原則や接続助詞の意味を 指摘することができる。	記述の点検	係り結びの結びの活用形や接続助詞の 意味を確認させる。

歌詠みの徳（宇治拾遺物語）

学習目標	評価の観点	評価規準	評価方法	
(1) 説話に描かれた世界のおもしろさに関心を持つ。	関心・意欲 ・態度	① 古代人にとつての和歌の意義について考えようとしている。	発言の確認	「情け」の意味について調べさせる。
(2) 古文の文章を内容や展開、人物の様子などを考えて音読する。	読む能力	② 古文の文章を、話の主題や人物の心情を押さえながら音読することができる。	行動の観察	登場人物の心理を想像させる。
(3) 説話の主題を理解する。		③ 大隅の守が郡司の罪を許すことになった経緯を説明できる。	記述の点検	和歌の意味と技巧に注目させる。
(4) 動詞の活用の基本について理解する。	言語についての知識・理解・技能	④ 主要な動詞の活用の種類と活用形を指摘し、活用表を作ることができる。	記述の点検	代表的な動詞の活用表を参照させる。

観音になった男（宇治拾遺物語）

学習目標	評価の観点	評価規準	評価方法	
(1) 説話に描かれた世界のおもしろさに 関心を持つ。	関心・意欲 ・態度	① 説話に描かれた古代人の生に対する 見方について考えようとしている。	発言の確認	規準を表現していない学習者への手だての例 現代の合理主義からは理解しがたいこ とがないか、考えさせる。
(2) 古文の文章を内容や展開、人物の様 子などを考えて音読する。	読む能力	② 古文の文章を、話の展開や登場人物 の心情を押さえながら音読することができる。	行動の観察	「男」と「人々」の心情や反応を想像 させる。
(3) 登場人物の心情を理解する。		③ 「男」の心情の変化、出家を決心す るに至った経緯を説明できる。	記述の点検	「男」の行動や心情、「人々」の反応を 述べた部分に分けさせる。
(4) 基本的な助動詞の意味や用法につい て理解する。	言語につい ての知識・ 理解・技能	④ 基本的な助動詞の活用と意味を指摘 し、現代語に置き換えることができる。	記述の点検	助動詞の活用表を参照させる。

双六の賭け（宇治拾遺物語）

学習目標	評価の観点	評価規準	評価方法	規準を表現していない学習者への手だての例
(1) 説話に描かれた事物やことさらに関心を持つ。	関心・意欲 ・態度	① 自分が興味を持った事物やことさらにについて、意欲的に調べて発表しようとしている。	発言の確認	百科事典や日本史に関する事典、また、インターネットなどを参考にさせる。
(2) 古文の文章を、登場人物の性格や心情を考えて音読する。	読む能力	② 古文の文章を、登場人物の性格や心情を押さえながら音読することができる。	行動の観察	会話文の音読のしかたを工夫させる。
(3) 話の主題を理解する。		③ 二人の侍の性格や言動の違いと、その後の運命の関係をとらえ、話の主題として説明できる。	記述の点検	二人の侍の観音信仰への態度の違いに注目させる。
(4) 基本的な形容詞の活用について理解する。	言語についての知識・理解・技能	④ 形容詞を抜き出し、活用の種類と活用形を指摘できる。	記述の点検	形容詞の活用表を参照させる。

呪いを知らせた犬（宇治拾遺物語）

学習目標	評価の観点	評価規準	評価方法	規準を表現していない学習者への手だての例
(1) 説話に描かれた古代人の精神世界に関心を持つ。	関心・意欲 ・態度	① 清明をめぐる事件の推移の描かれ方に関心を持つとしている。	発言の確認	夢や作り話としてではなく、現実世界のできごととして描かれていることに注目させる。
(2) 古文の文章を、話の展開や登場人物の性格や言動を考えて音読する。	読む能力	② 古文の文章の音読によって、物語の展開や人物の躍動感を生き生きと伝えることができる。	行動の観察	音読のリズムや速度、強弱を工夫させる。
(3) 話の展開を、筋を追って詳細に理解する。		③ 清明をめぐる事件の展開を、時系列にそって記述できる。	記述の点検	教科書 P 35 「学習の手引き」課題一の観点ごとに、内容を一文ずつに記述してまとめる。
(4) 敬語の基礎について理解する。	言語についての知識・理解・技能	④ 基本的な敬語の用法を正確に指摘できる。	記述の点検	敬語の基本についてのまとめを参照させる。

絵仏師の執心（宇治拾遺物語）

学習目標		評価の観点	
(1) 説話に描かれた古代人の考え方や行動を批判的にとらえる。	関心・意欲・態度	① 良秀の取った行動や発言について、自分の考えを持つようとしている。	評価方法
(2) 古文の文章を、話の展開や登場人物の性格、言動を考えて音読する。	読む能力	② 古文の文章の音読によって、物語の展開や人物の性格、言動を生き生きと伝えることができる。	発言の確認
(3) 説話に登場する人物の特異性について理解し、説明する。		③ 良秀の人物としての特徴を、自分の表現によって記述できる。	行動の観察
(4) 副助詞のはたらきについて理解する。	言語についての知識・理解・技能	④ 副助詞の基本的な用法を正確に指摘できる。	記述の点検
			規準を表現していない学習者への手だての例
			「非常識」「狂気」「自己中心的」「芸術至上主義」などのキーワードを与える。
			情景や人物の心情を想像し、音読のリズムや速度、強弱を工夫させる。
			舞台となった火事という場面では、ふつうの常識人はどのような行動を取るかを考えさせる。
			「だに」「すら」「さへ」の比較を、適当な例文によって考えさせる。

夢を買う（宇治拾遺物語）

学習目標	評価の観点	評価規準	評価方法	
(1) 説話に描かれた世界のおもしろさに 関心を持つ。	関心・意欲 ・態度	① 説話に描かれた古代人の夢に対する 見方について考えようとしている。	発言の確認	規準を表現していない学習者への手だての例 現代の合理主義からは理解しがたいこ とがないか、考えさせる。
(2) 古文の文章を内容や展開、人物の様 子などを考えて音読する。	読む能力	② 古文の文章を、場面や登場人物の心 情を押さえながら音読することができる。	行動の観察	登場人物の人物像を想像させる。
(3) 話の展開を順を追って理解し、理解 したことを説明する。		③ 話の展開をおさえることによって、 編者の意図をくみとることができる。	記述の点検	夢に対する古代人の考え方をとらえさ せる。
(4) 基本的な助動詞の意味や用法につい て理解する。	言語につい ての知識・ 理解・技能	④ 基本的な助動詞の意味を文法的に説 明することができる。	記述の点検	「終止形接続なり」と「連体形接続な り」の意味の違いを考えさせる。

亀の恩返し（宇治拾遺物語）

学習目標		評価の観点	
(1) 説話の表現の巧みさに関心を持つ。	関心・意欲・態度	① 話の展開の中で果たしている文の表現効果を説明できる。	評価方法
(2) 話の展開のおもしろさを表現して音読する。	読む能力	② 話の展開のおもしろさが伝わるように工夫して音読することができる。	発言の確認
(3) 話の展開を順を追って理解し、説明する。		③ 助けられた亀が、どのようにして恩返しをしたかを説明できる。	行動の観察
(4) 助動詞を探して意味と用法を明らかにする。	言語についての知識・理解・技能	④ 基本的な助動詞の意味と用法を指摘できる。	記述の点検
			規準を表現していない学習者への手だての例
			「銭が濡れている」ことの理由を考えさせる。
			会話をその話し手になったつもりで、驚きや意外性を意識して音読させる。
			銭がなぜ手もとに戻ってきたかを考えさせる。
			必要に応じて助動詞の活用表を参照させる。

袴垂と保昌（宇治拾遺物語）

学習目標	評価の観点	評価規準	評価方法	規準を表現していない学習者への手だての例
(1) 説話に描かれた登場人物の特徴に関心を持つ。	関心・意欲 ・態度	① 袴垂や保昌の人物造形のあり方やその描かれ方のおもしろさに関心を抱くうとしている。	発言の確認	登場人物の言動について、どういふ点で常識を越えているかを考えさせる。
(2) 古文の文章を、登場人物の性格や心情を考えて音読する。	読む能力	② 古文の文章の音読によって、登場人物の性格や心情を生きたと伝えることができる。	行動の観察	心内語や会話文の読み方を工夫させる。
(3) 話の展開にそって、登場人物の心情の変化を理解し、その理解した内容を表現する。		③ 袴垂や保昌のやりとりを通して、その言動の裏にある心理を推し量ることができる。	記述の点検	場面ごとの登場人物の気持ちの動きを想像させる。
(4) 古文特有の文章表現を理解する。	言語についての知識・理解・技能	④ 省略された文の主語を補って、その動作主を指摘することができる。	記述の点検	登場人物のやりとりの場面を具体的に想像させる。

後の千金（宇治拾遺物語）

学習目標		評価の観点		評価規準		評価方法	
(1)	古代日本文学のあり方に関心を持つ。	関心・意欲 ・態度		① 日本文学に与えた中国古典の影響を理解しようとしている。	発言の確認	規準を表現していない学習者への手だての例 「莊子」について調べさせる。	
(2)	話の展開のおもしろさを表現して音読する。	読む能力		② 話の展開のおもしろさが伝わるように工夫して音読することができる。	行動の観察	莊子のたとえ話を莊子の気持ちになつて読ませる。	
(3)	話の展開を順を追って理解し、説明する。			③ たとえ話での対応関係を説明できる。	記述の点検	「莊子」と「食物」、「鮒」と「水」の関係を考えさせる。	
(4)	副詞の意味と用法を明らかにする。	言語についての知識・理解・技能		④ 「さらに」の意味と用法を説明できる。	記述の点検	必要に応じて古語辞典を引かせる。	

応天門炎上（宇治拾遺物語）

学習目標		評価の観点		評価規準		評価方法	
(1)	編者の視点について関心を持つ。	関心・意欲 ・態度		① 登場人物に対する説話編者の描き方について考えようとしている。	発言の確認	伴善男についての記述を追跡させる。	規準を表現していない学習者への手だての例
(2)	古文の文章を、話の展開や場面の特徴を考えて音読する。	読む能力		② 古文の文章の音読によって、事件の展開のおもしろさや場面の緊迫感を生き生きと伝えることができる。	行動の観察	会話文の読み方で、発話者の心情を推測させる。	
(3)	話の構成と展開を理解し、その理解した内容を表現する。			③ 話全体を四場面に分け、それぞれの内容を簡潔にまとめることができる。	記述の点検	形式段落ごとにその中心となることがらをまとめていく。	
(4)	古文の敬語の基礎を理解する。	言語についての知識・理解・技能		④ 敬語の用法を分類し、その敬意の主体と対象を指摘することができる。	記述の点検	敬語の基本的な三分類を確認するとともに、登場人物の地位や身分関係を押さえさせる。	

絵師と大工（今昔物語集）

学習目標		評価の観点		評価規準		評価方法	
(1) 編者の採録の意図について関心を持つ。	(2) 古文の文章を、登場人物の心情を考えて音読する。	関心・意欲 ・態度	読む能力	① 本話が伝えようとしている主題について考えようとしている。	② 古文の文章の音読によって、登場人物の心情を生き生きと伝えることができる。	発言の確認	行動の観察
(3) 話の構成と展開を理解し、その理解した内容を表現する。	(4) 古文の敬語の基礎を理解する。			③ 登場人物の二人の関係や技を競い合っていたときの気持ち、お互いに相手をどう思っていたのかを読み取り、簡潔にまとめることができる。	④ 敬語の用法を分類し、その敬意の主体と対象を指摘することができる。	記述の点検	記述の点検
						規準を表現していない学習者への手だての例	登場人物がどのような点で際立っていたかを考えさせる。
						会話文の読み方や登場人物の心理描写の読み方に注意を向けさせる。	登場人物の二人がなぜライバルであったのかを考えさせる。
						敬語の基本的な三分類を確認するとともに、登場人物の地位や身分関係を押さえさせる。	

舞茸（今昔物語集）

学習目標	評価の観点	評価規準	評価方法	
(1) 説話が描く世界のおもしろさを味わう。	関心・意欲 ・態度	① 話のおもしろさを感じ取ろうとしている。	発言の確認	規準を表現していない学習者への手だての例 この話の中に出てくる非日常的な要素を考えさせる。
(2) 話の展開のおもしろさを表現して音読する。	読む能力	② 話のおもしろさが伝わるように工夫して音読することができる。	行動の観察	場面の様子を思い浮かべながら音読させる。
(3) 編者の論評の意味を理解し、説明する。		③ 「あやし」という感情の具体的な意味や対象について説明できる。	記述の点検	「あやし」の辞書的な意味について確認させる。
(4) 助動詞を探して意味と用法を明らかにする。	言語についての知識・理解・技能	④ 推量系の助動詞の意味と用法を指摘できる。	記述の点検	必要に応じて助動詞の活用表を参照させる。

玄象の琵琶（今昔物語集）

学習目標	評価の観点	評価規準	評価方法	
(1) 説話が描く世界のおもしろさを味わう。	関心・意欲 ・態度	① この話のどのような点がおもしろいかを感じ取ろうとしている。	発言の確認	規準を表現していない学習者への手だての例 この話の中に理解しがたいふしぎなところがないか、考えさせる。
(2) 登場人物の心理を表現して音読する。	読む能力	② 登場人物の心理が伝わるように工夫して音読することができる。	行動の観察	場面の様子と登場人物の心理を思い浮かべながら音読させる。
(3) 話の展開が持つ意味を理解し、説明する。		③ 博雅の性格や行動の特徴をとらえ、琵琶を取り戻せた理由をまとめられる。	記述の点検	博雅が音楽に特別な才能を持っていたことを意識させる。
(4) 助動詞の意味と活用形を明らかにする。	言語についての知識・理解・技能	④ 断定の助動詞の意味と活用形を理解している。	記述の点検	必要に応じて助動詞の活用表を参照させる。

姨母捨山（今昔物語集）

学習目標	評価の観点	評価規準	評価方法	
(1) 説話の持つ教訓の意味について考える。	関心・意欲 ・態度	① 説話の中で果たしている教訓と物語の展開との関係を理解しようとする。	発言の確認	規準を表現していない学習者への手だての例 「よしなき心」の意味を考えさせる。
(2) 登場人物の心情を理解して音読する。	読む能力	② 「男」の心情の変化が伝わるように工夫して音読することができる。	行動の観察	「男」の心情の変化を押さえさせる。
(3) 登場人物の心情の変化を順を追って理解し、説明する。		③ 話の展開にそって、「男」の心情の変化を書き記すことができる。	記述の点検	場面ごとにできごと・行動と「男」の心情とを表にまとめる。
(4) 現代語との間にずれのある動詞の活用について理解する。	言語についての知識・理解・技能	④ 動詞を文法的に説明することができる。	記述の点検	動詞の活用表を参照させる。

武士の祭り見物（今昔物語集）

学習目標		評価の観点	
(1) 説話が示唆する当時の人々の物の見方や考え方について知る。	関心・意欲・態度	① 説話を通して当時の文化のあり方について考えようとしている。	評価方法
(2) 話のおかしみを表現して音読する。	読む能力	② 登場人物の様子や心理、話の展開のおかしみが伝わるように工夫して音読することができる。	評価方法
(3) 話の展開を簡潔にまとめる。		③ 観点にそって、話の展開の追って記述し、そのおもしろさがどこにあるのかを指摘することができる。	評価方法
(4) 文の接続についてまとめて理解する。	言語についての知識・理解・技能	④ 接続助詞の意味を指摘し、現代語に直すことができる。	評価方法
			規準を表現していない学習者への手だての例
			賀茂祭が担っていた意義について調べさせたり、ヒントを与えたりする。
			ひとつひとつの場面で、何をどうおもしろく描いているかを考えさせる。
			三人の武士の祭り見物がなぜ失敗に終わったのかを考えさせる。
			接続助詞の直前の用言の活用形に注意を向ける。

笛吹き成方（十訓抄）

学習目標	評価の観点	評価規準	評価方法	規準を表現していない学習者への手だての例
(1) 説話によって伝えようとしている編者の意図を考える。	関心・意欲 ・態度	① 登場人物に対する編者の見方について考えようとしている。	発言の確認	『十訓抄』の性格や、本話を収める同集第七の標題が「思慮を専らにすべきこと」であることを、ヒントとして与える。
(2) 話の展開を簡潔にまとめる。	読む能力	② 二人の登場人物の計略の応酬を簡潔にまとめることができる。	記述の点検	俊綱はどのようにして笛を手に入れようとしたのか、成方はなぜ笛を打ち碎いたのかを考えさせる。
(3) 古文の文の特性をとらえる。	言語についての知識・理解・技能	③ 省略された文の主語を補い、動作主を明らかにすることができる。	記述の点検	二人の主要な登場人物間のやりとりであることを示唆する。

行成と実方（十訓抄）

学習目標	評価の観点	評価規準	評価方法	規準を表現していない学習者への手だての例
(1) 説話の背景の歴史や人物について調べて発表する。	関心・意欲 ・態度	① 自分が興味を持ったことがらについて、意欲的に調べて発表しようとしている。	発言の確認	歴史の概説書や日本史事典、百科事典などを調べさせる。
(2) 登場人物に関する編者の描き方をとらえる。	読む能力	② 二人の登場人物の性格や言動の特徴とその後の運命の対比をまとめ、その因果関係に対する編者の見解を述べることができる。	行動の観察 記述の点検	冠を打ち落とす行為の意味や陸奥の国守に遣わすことの意味を解説し、また、「麗しく」「いみじき」「大人しき」の語義を調べさせる。
(3) 敬語の意義を理解する。	言語についての知識・理解・技能	③ 敬語の取捨選択の意味を明らかにすることができる。	記述の点検	敬語の使用が話し手からの待遇であることに注意させる。

義家と宗任（古今著聞集）

学習目標	評価の観点	評価規準	評価方法	規準を表現していない学習者への手だての例
(1) 説話の主題について考える。	関心・意欲 ・態度	① 説話の記述から登場人物に対する編者の評価や採録の意図を考えようとしている。	発言の確認	どのような点で「ほとんど神に通じた人」と言われたのかを考えさせる。
(2) 話の展開の要点を押さえる。	読む能力	② 話の前半と後半について、それぞれのエピソードの中心となっているできごとの意味をとらえることができる。	記述の点検	単に弓矢の技量だけを記しているのではないことに気づかせる。
(3) 用言の活用形の用法についての基本をまとめる。	言語についての知識・理解・技能	③ 連体形の用法の違いについて指摘することができる。	記述の点検	連体形の用法の一覧を提示する。

女盗賊（古今著聞集）

学習目標		評価の観点	
(1) 編者の説話採録の意図について考える。	関心・意欲・態度	① 説話に描かれた事件に対する編者の感想を考えようとしている。	規準を表現していない学習者への手だての例
(2) 話の展開の要点を押さえる。	読む能力	② 事件が発覚した過程と盗賊の正体の意外性を読み取り、まとめることができる。	最終段落から、編者のことばを読み取らせる。
(3) 古典の文章表現の特徴をとらえる。	言語についての知識・理解・技能	③ 挿入句に注意して、現代語に直すことができる。	本文から関係ある部分を抜き出させる。
	記述の点検	記述の点検	現代語での挿入句の例を示す。
	評価方法	発言の確認	

相撲の勝負（古今著聞集）

学習目標		評価の観点		評価規準		評価方法	
(1)	当時の人の物の見方や考え方を知る。	関心・意欲・態度		① 弘光の涙と出家の意味や鳥羽院の不快感の理由を考えようとしている。		発言の確認	規準を表現していない学習者への手だての例 相撲の持っていた社会的な意味を理解させる。
(2)	登場人物の性格や心情をとらえる。	読む能力		② 二人の力士の様子や態度の描写を抜き出すことができる。		記述の点検	二人の力士の性格を考えさせる。
(3)	敬語の用法の基本を理解する。	言語についての知識・理解・技能		③ 補助動詞「候ふ」の意味とはたらしきを説明することができる。		記述の点検	現代語での挿入句の例を示す。